

教員名	坂本 佳鶴恵 (SAKAMOTO Kazue)
所 属	人間文化研究科比較社会文化学専攻比較社会論講座
学 位	社会学修士 (1984 東京大学)
職 名	教授
URL / E-mail	

◆研究キーワード

コミュニケーション / メディア / 社会意識 / 家族・ジェンダー

◆主要業績

総数 (5) 件

- ・「居場所をめぐるやりとり——ユビキタス性のコミュニケーション」
『モバイル・コミュニケーション——携帯電話の会話分析』（山崎敬一編）大修館 p.99-118、2006年4月
- ・Analyzing Japanese media coverage of World Cup 2002: Serious nation and frivolous woman,
World Cup Conference Leipzig 2006:Football,Media & Everdaylife,
University of Leipzig & Media and Sport Section of IAMCR (CD)
- ・「森田伸子報告へのコメント（第一部2章一節）、『アイデンティティの権力』をめぐる（第三部）」
『子どもから成人への移行概念としてのシティズンシップの変容とその思想的文脈』（小玉重夫編）
お茶の水女子大学21世紀COEプログラム 2006年3月 pp.18-20,77-100
- ・「子育て家庭の経済状況に関する調査研究」を読んで 『月刊子ども未来』7
- ・「ジェンダーとアイデンティティ——ゴッフマンからバトラーへ」
『ジェンダーと社会理論』（江原由美子・山崎敬一編）有斐閣 2006年12月

◆研究内容

1. 携帯電話の会話を、エスノメソドロジーの手法を用いて分析した。居場所を聞くやりとりが、ユビキタス性という携帯電話の性質を背景として、用件への導入という役割をもつことを明らかにし、携帯電話特有のコミュニケーションのルールを論ずる論文を完成し、刊行された。
2. 日本のワールドカップサッカーをめぐるテレビ・新聞報道の言説分析を、国際学会で発表し、CD論文となった。
3. 構築主義と差別論の関係について、2005年度刊行した著作『アイデンティティの権力』を補う論考をおこなった。(COE報告)
4. 少子化の経済的・社会的要因の調査を分析した。
5. 工学の国際学会の聞き取り調査をおこない、科学のコミュニケーションによる構築という観点から、工学と社会学の共同研究の可能性を探った。

◆教育内容

学部では、各自のテーマ発表と、前期は身近な文化事象の分析、後期は感情の社会学と良質な社会調査分析を学ぶことを目的とした。ジョン・フィスク『抵抗の快楽』、E.ホックシールド『管理された心』を読み、議論をおこなった。

大学院では、各自のテーマ発表のほか、院生と話し合っただけで決めたテキストを議論した。フーコーの『監獄の誕生』、ケネス・ガーゲン『あなたへの社会構成主義』を読み、議論をおこなった。

基礎ゼミでは、質的社会調査についての基礎的文献を読みながら、その理論と方法を紹介した。佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社を読み、インタビュー調査を試みた。

NPOインターンシップでは、全体の運営、広告・宣伝のNPO団体への学生派遣を担当した。

このほか、卒論の個人指導・共同指導、修士論文個人指導・共同指導、博士論文審査を担当した。

◆共同研究例

- ・現代および未来の家族のイメージの提供
- ・少子化の経済的理由を調査、検討
- ・ドメスティック・バイオレンスの都市、農村における調査

◆将来の研究計画・研究の展望

1. 言説分析、会話分析などの理論的背景となる構築主義について、そのアプローチ、利点と問題などをまとめる。
現在執筆中。共同執筆本の一部として発表される予定。
2. 女性雑誌の研究について、成果をまとめる。
3. 工学者との共同研究を、それ自体をコミュニケーション問題として再検討。

◆受験生等へのメッセージ

現代社会では、さまざまな情報が氾濫しています。いかに情報を集め、その良否を確かめ、自分で考え、自分の言葉で語っていくか。私の授業が、そうしたことを、学んでいける場になればと思っています。